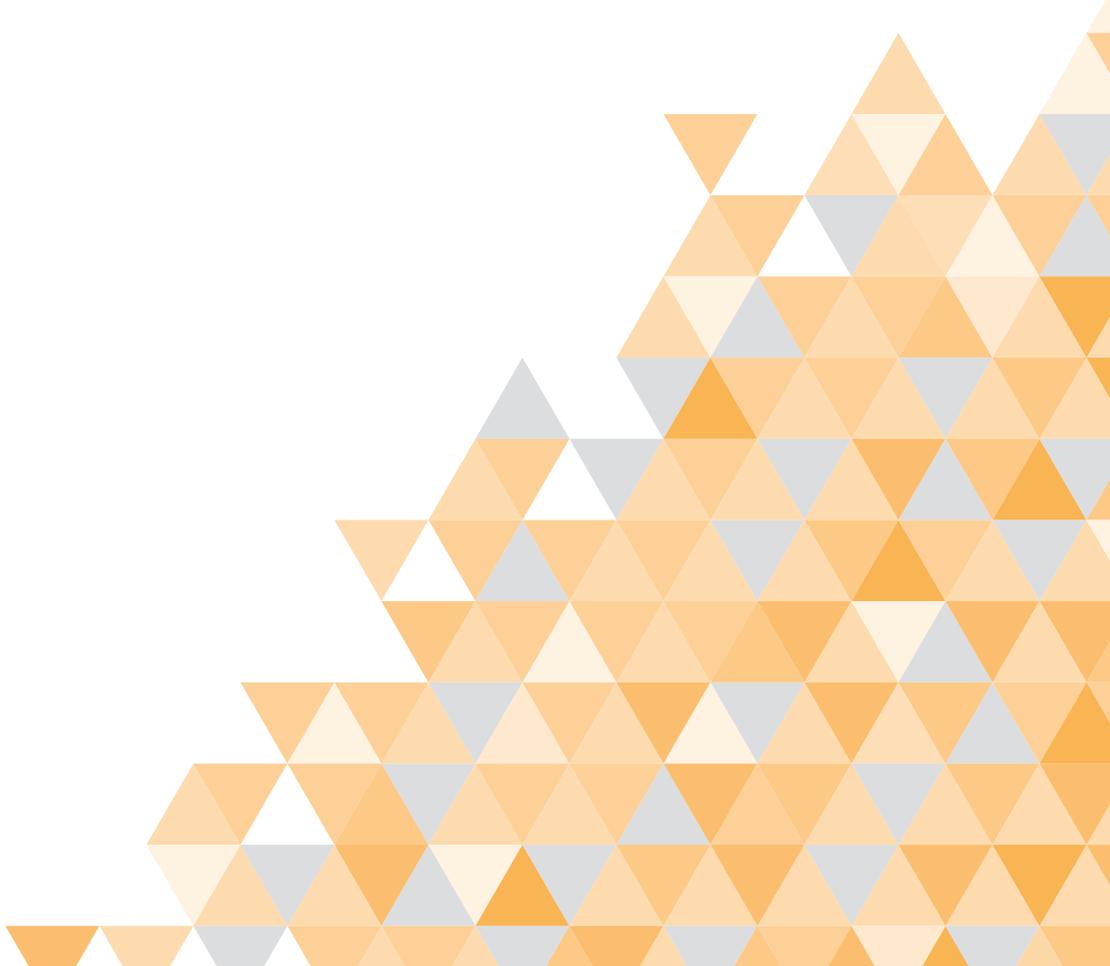


学生要覧

システムデザイン工学研究科

Tokyo Denki University Catalog

2026(令和8)年度



2026(令和8)年度 授業日程(システムデザイン工学研究科)

2026(令和8)年度 前期

2026	日	月	火	水	木	金	土	予定
4月				1	2	3	4	1日～8日：オリエンテーション(4/2入学式) 10日：授業開始 29日：昭和の日(授業実施日)
					オリ入学	オリ	オリ	
	5	6	7	8	9	10	11	
		オリ	オリ	オリ		(1)	(1)	
	12	13	14	15	16	17	18	
		(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	
	19	20	21	22	23	24	25	
		(2)	(2)	(2)	(2)	(3)	(3)	
	26	27	28	29	30			
		(3)	(3)	(3)	(3)			
5月					1	2		1日：4/29 振替休校(休校運用) 3日：憲法記念日 4日：みどりの日 5日：こどもの日 6日：振替休日
					振替	(4)		
	3	4	5	6	7	8	9	
					(4)	(4)	(5)	
	10	11	12	13	14	15	16	
		(4)	(4)	(4)	(5)	(5)	(6)	
	17	18	19	20	21	22	23	
		(5)	(5)	(5)	(6)	(6)	(7)	
	24	25	26	27	28	29	30	
		(6)	(6)	(6)	(7)	(7)	(8)	
31								
6月		1	2	3	4	5	6	(4日：授業開始(前後期)) 7日：オープンキャンパス(予定)
		(7)	(7)	(7)	(8)	(8)	(9)	
	7	8	9	10	11	12	13	
		OC	(8)	(8)	(8)	(9)	(9)	
	14	15	16	17	18	19	20	
		(9)	(9)	(9)	(10)	(10)	(11)	
	21	22	23	24	25	26	27	
		(10)	(10)	(10)	(11)	(11)	(12)	
28	29	30						
	(11)	(11)						
7月				1	2	3	4	20日：海の日(授業実施日) 25日、27日、28日：授業予備日 22日：授業終了 29日：追試①
				(11)	(12)	(12)	(13)	
	5	6	7	8	9	10	11	
		(12)	(12)	(12)	(13)	(13)	(14)	
	12	13	14	15	16	17	18	
		(13)	(13)	(13)	(14)	(14)		
	19	20	21	22	23	24	25	
		(14)	(14)	(14)		予備		
26	27	28	29	30	31			
	予備	予備	追①					
8月							1	1日～2日：オープンキャンパス(予定) 4日：追試② 7日～17日：一斉休業期間 7日：7/20 振替休校(休校運用) 11日：山の日
							OC	
	2	3	4	5	6	7	8	
		OC	追②		振替	休	休	
	9	10	11	12	13	14	15	
		休	休	休	休	休	休	
	16	17	18	19	20	21	22	
		休	休					
	23	24	25	26	27	28	29	
30	31							

2026(令和8)年度 後期

2026	日	月	火	水	木	金	土	予定		
9月			1	2	3	4	5	11日：創立記念日 12日：授業開始 19日：前期末修了式(予定) 21日：敬老の日(授業実施日) 22日：国民の休日(授業実施日) 23日：秋分の日		
	6	7	8	9	10	11	12			
							(1)			
	13	14	15	16	17	18	19			
		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)			
	20	21	22	23	24	25	26			
		(2)	(2)		(2)	(2)	(3)			
	27	28	29	30						
		(3)	(3)	(2)						
10月					1	2	3	2日：9/21 振替休校(休校運用) 12日：スポーツの日(授業実施日) 29日、30日：旭祭準備日(休講) 31日：旭祭(休講)		
						(3)	振替			
	4	5	6	7	8	9	10			
		(4)	(4)	(3)	(4)	(3)	(5)			
	11	12	13	14	15	16	17			
		(5)	(5)	(4)	(5)	(4)	(6)			
	18	19	20	21	22	23	24			
		(6)	(6)	(5)	(6)	(5)	(7)			
	25	26	27	28	29	30	31			
		(7)	(7)	(6)	準備	準備	本祭			
11月	1	2	3	4	5	6	7	1日：旭祭(休講) 2日、3日：旭祭片付け日(休講) (3日：文化の日) (7日：授業開始(後後期)) 23日：勤労感謝の日(授業実施日)		
	本祭	片付	片付	(7)	(7)	(6)	(8)			
	8	9	10	11	12	13	14			
		(8)	(8)	(8)	(8)	(7)	(9)			
	15	16	17	18	19	20	21			
		(9)	(9)	(9)	(9)	(8)	(10)			
	22	23	24	25	26	27	28			
		(10)	(10)	(10)	(10)	(9)	(11)			
29	30									
	(11)									
12月			1	2	3	4	5	15日：授業休講日 学生支援センター行事 【卒業生による仕事研究セミナー】 25日：年内授業終了日 26日：9/22 振替休校(休校運用) 28日～1/6：冬季休業(予定)		
			(11)	(11)	(11)	(10)	(12)			
	6	7	8	9	10	11	12			
		(12)	(12)	(12)	(12)	(11)	(13)			
	13	14	15	16	17	18	19			
		(13)	キャリア	(13)	(13)	(12)	(14)			
	20	21	22	23	24	25	26			
		(14)	(13)	(14)	(14)	(13)	振替			
27	28	29	30	31						
2026						1	2	5日：10/12 振替休校(休校運用) 6日：11/23 振替休校(休校運用) 11日：成人の日 13日、14日、18日：授業予備日 15日～17日：大学入学共通テスト(前日準備含む)に伴う休講 22日：追試① 27日：追試②		
	3	4	5	6	7	8	9			
			振替	振替		(14)				
	10	11	12	13	14	15	16			
			(14)	予備	予備	共テ	共テ			
	17	18	19	20	21	22	23			
		共テ	予備			追①				
	24	25	26	27	28	29	30			
				追②						
	31									
2月		1	2	3	4	5	6	11日：建国記念の日 13日：修士論文及び研究成果発表会 23日：天皇誕生日		
	7	8	9	10	11	12	13			
	14	15	16	17	18	19	20			
	21	22	23	24	25	26	27			
	28									
	3月		1	2	3	4	5		6	19日：修了式 21日：春分の日 22日：振替休日
		7	8	9	10	11	12		13	
		14	15	16	17	18	19		20	
21		22	23	24	25	26	27			
28		29	30	31						

カレンダーの見方

- ：授業を行う日(学力考査・追試験日等を含む)
- ※ ①などの丸数字は、各曜日ごとの対面での授業回を表す。
- ※ 授業は対面授業14回 + オンデマンド授業1回で実施する。
オンデマンド授業は学期内に実施する(実施日は科目による)。
- ：授業を行わない日(但し集中授業は除く)
- ※ 授業を行わない日に集中授業、補講等を実施する場合があります。
- ※ 授業日程、行事予定等は変更の可能性があります。
変更がある場合は、別途掲示等にて周知をします。
- ※ 休業期間中及び休校日並びに本学行事開催等に伴う、事務窓口及び学内入構等の取扱いについては、必要に応じて別途案内します。

UNIVERSITY CATALOG

学生要覧 2026 大学院編

【(公財)大学基準協会による認証評価(大学評価)の受審について】

認証評価制度は、2002年の学校教育法の改正に伴い2004年に導入されました。各大学は、教育・研究水準の向上に資するため、当該大学の教育・研究、組織・運営、施設・設備等の総合的な状況について、一定期間(7年以内)ごとに文部科学大臣の認証を受けた者(認証評価機関)による評価(認証評価)を受審することとなっています。

本学は、2009年度、2016年度に続き、2023年度に(公財)大学基準協会(認証評価機関)において、認証評価を受審した結果、大学基準に適合していることが認定(認証期間:2024年4月1日~2031年3月31日)されました。

今後も更なる教育・研究活動の充実・発展のため、改善・改革を実施し、学生の皆さんの期待に応えられるよう、教育・研究の質の向上に取り組みます。

東京電機大学大学院 システムデザイン工学研究科

学生要覧 目次

第1章 新入生の皆さんへ

高度専門家を目指してください(学長 射場本 忠彦)	2
新入生に贈る言葉(システムデザイン工学研究科委員長 前田 英作)	3

第2章 学修案内

システムデザイン工学研究科の教育	
東京電機大学大学院	8
システムデザイン工学研究科	10
各専攻の目的、方針、授業科目配当表及び研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ	
情報システム工学専攻	16
デザイン工学専攻	22

第3章 履修案内

1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法	30
2 履修登録	31
3 履修することができる授業科目	31
4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い	32
5 昼夜開講制の実施	32
6 授業	33
7 シラバス(講義要目)	35
8 学力考査及び成績評価	35
9 研究指導実施体制	36
10 進級要件	39
11 修了要件	39
12 学位	42
13 修士論文等の取扱い	42
14 先端科学技術研究科博士課程(後期)進学	44
15 留学・海外語学研修	45
16 連携大学院協定研究所	46
17 履修証明プログラム	47
18 創造工学ユニット	47
19 学生ポータルサイト「DENDAI - UNIPA」	51
20 e-Learning システム WebClass	54
21 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」	56

第1章 新入生の皆さんへ

高度専門家を目指してください

学長 射場本 忠彦

20世紀後半から今日にかけて、科学技術は目覚ましい発展を遂げ、世界的に経済成長とグローバル化をもたらし、すべての社会活動・産業活動の基盤となってきました。すなわち、知識・情報・技術が、これまでにないほど高い価値を持つ、知識基盤社会になってきました。

このような社会環境のなかで、東京電機大学の大学院は、修士課程には、工学研究科、理工学研究科、未来科学研究科、システムデザイン工学研究科があり、博士課程（後期）としては、先端科学技術研究科を設置しています。

大学院修士課程は、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の養成を使命とし、高度専門家となるための幅広い学識の涵養を図り、研究能力およびそれに加えて高度で専門的な職業を担うための、卓越した能力を培う課程であります。

博士課程（後期）は、高度な専門性が求められる社会の多様な方面で活躍し得る、先進的な研究能力とその基盤となる豊かな学識を養い、修了者が研究・教育機関に限らず、社会の多様な場で指導的な人材として活躍するための高潔な人格をも涵養する課程であります。

産業界を取り巻く環境変化は、株主、管理運営、製造販売などのグローバル化が進み、企業自体が国際企業になってきました。ほとんどの業界での近況を見てもわかる通り、新しい技術への対応、開発製造のサイクルが年々短縮されています。このような環境から、高度専門家には、新しい技術を生み出すため、さまざまな分野の人と協力して問題解決にあたることの出来るグローバルコミュニケーション能力が、益々要求されてきています。以上述べた観点から、コースワークの充実による実学・実践能力および、国際的に活躍できる能力を養成する大学院教育に、ますます大きな期待が寄せられてきています。

理工系の学部生の約40%が大学院に進学していますが、先進諸外国と比べて日本の大学院修了者の比率はまだ低い状況にあります。大学院での教育・研究を通じて、これからの科学技術の発展にも十分適応できるような基盤技術を身に付けた高度専門家の輩出が期待されています。

本学は、「実学尊重」を建学の精神、「技術で社会に貢献する人材の育成」を使命とし、初代学長の丹羽保次郎先生の名言「技術は人なり」を教育・研究の理念としてきました。大学院での研究を通じて教育を受ける院生の皆さんは、本学の使命である、社会に貢献する技術を生み出す、あるいは社会の複雑な諸問題を技術により解決する人材になるべく、自分の専門だけでなく、関連する様々な分野にも興味を持ってください。

これからの国際化、先端化、総合化の社会で活躍するための技術基盤と研究能力、豊かな学識に加え、全体を俯瞰し判断して主導しうる能力を東京電機大学の大学院で磨き、「人の心がわかる」高度専門家になることを期待しています。

新入生に贈る言葉

システムデザイン工学研究科委員長 前田 英作

【可能性を探す】皆さんがこれから過ごす2年間は、無限の可能性を秘めた大切な時期にあたります。頭も体も柔軟性に富み、エネルギーに満ちあふれ、生物である人間としての最盛期なのです。是非、できる限り多くのことに挑戦し、経験し、学んで下さい。人生100年のその振り返り地点となる約20年後、皆さんが社会の中でどのような役割を果たしているのか、いろいろな夢を描いてみて下さい。

【学問を愉しむ】新しいことを学び理解したときの喜び(enchantment)、新しいことに気がついたときの驚き(wonder)、これまで自身が持っていた世界観が音を立てて崩れ、全く違う新しい地平が広がる。その愉悦こそが学ぶことの醍醐味です。些細なことであっても良いのです。世界を観察し、探検し、動かす、そんな体験ができることを期待しています。



【真理と向き合う】研究課題に取り組んでいく中で行う思索や実験のすべては、真理との対話です。対話のための道具は論理であり、いい加減な推測、個人的な思いや期待などは一切排除されなければなりません。常識だと思っていることさえも疑ってかかることが必要です。何が正しいのか、なぜ正しいと結論できるのか、その答えを責任をもって語らなければならないのは皆さん自身です。真理と向き合う者には、謙虚さと厳しさが求められます。そして、真理の探究へと向かう情熱と真摯な姿勢の中から、世界を動かす新しい概念や技術が生まれるのです。

【知性と人格を育む】世界のあらゆる出来事、あらゆる分野の活動に眼を向け、そのもつ意味と価値について考えて下さい。遠い他国での騒動から、隣家の庭の草刈りまで。政治、経済から芸術、スポーツまで。日々の見聞、思索、活動のすべてがやがて血となり肉となり、皆さん一人一人の知性と人格を形作ります。

- 「最後まで知性のクレイドル cradle（揺り籠）は疑いなんだ」（鶴見俊輔）
- 「時間とともに人は態度や意見を変え、新しい癖や奇行を身につける。だが、そういうものは飾りで、人格とはちょっと違う。人格はたぶん知性に似ているが、完成の時期が遅い。二十歳から三十歳の間か？そこで人格は出来上がり、以後はその人格で一生を過ごす。」（Julian Barnes “The Sense of an Ending” 土屋政雄訳）

新入生へ

学修案内

A
M
J

A
M
D

履修案内

第2章 学修案内

新人生へ

学修案内

A
M
J

A
M
D

履修案内

システムデザイン 工学研究科の教育

東京電機大学大学院

建学の精神 「実学尊重」

1907年（明治40年）の「電機学校設立趣意書」において、「工業は学術の応用が非常に重要だが、本学は学問としての技術の奥義を研究するのではなく、技術を通して社会貢献できる人材の育成を目指すために実物説明や実地演習、今日の実験や実習を重視し、独創的な実演室や教育用の実験装置を自作する等の充実に努めること」に基づき、「実学尊重」を建学の精神として掲げました。

教育・研究理念 「技術は人なり」

1949年（昭和24年）の東京電機大学設立時において、初代学長の丹羽 保次郎（にわ やすじろう）先生は、「よい機械を作るにはよい技術者でなければならない」すなわち、「立派な技術者になるには、人として立派でなければならない」という考え方に基づいた「技術は人なり」を教育・研究理念として掲げました。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

東京電機大学大学院修士課程は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に合格した者に修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、専門分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を持つ
- (2) 理工学に関わる基礎的課題を設定し、専門的な知識と技術を活用して、それを解決し発表できる実践力を持つ
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを持つ

※標準修業年限は、修士課程2年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

修士課程では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、各研究科、専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 専門分野に応じた高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目を設置します。
- (2) 専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 高度専門技術者および研究者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

システムデザイン工学研究科

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

システムデザイン工学研究科は、学部教育で培った科学技術に関する知識をさらに発展させ、自然と社会とに調和し、人間がより充実した生活が営める環境を創生するために必要な科学技術の開発及びそれを発展させる能力を修得させることを目的とします。

すなわち、快適で充実した生活のデザインとそれが営める環境の創成・維持と発展に、科学技術を適用しかつ共生させることができる、幅広い視野と時代の方向性を見通す先見性と創造性を有する高度専門科学技術者を養成します。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

システムデザイン工学研究科は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査に合格した者を、「人間科学と情報技術から生まれる未来社会をデザインし具現化することができる人物」として認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、本研究科が設置する各専攻の専門分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識、異分野との統合によりあらたな知識・技術を生み出す創造的能力を持つ。
- (2) 学術的・社会的課題に対して適切な問題を設定し、専門的な知識と技術を活用して、その問題解決に資する実践力を持つ。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、各専攻の専門分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、他者との協働に必要なコミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程2年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

システムデザイン工学研究科では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、「課題の発見と分析、解決手段の創案、効果の検証と評価を行う能力」を育むため、各専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 各専攻の専門分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目、分野が統合する学際性を涵養する科目を設置します。
- (2) 各専攻の専門分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。

- (3) 各専攻の専門分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

新入生へ

学修案内

A
M
J

A
M
D

履修案内

各専攻の目的、方針、
授業科目配当表及び研究指導を
担当する教員の専門分野と
指導研究テーマ

新入生へ

学修案内

A
M
J

A
M
D

履修案内

情報システム工学専攻

Information System Engineering

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

情報システム工学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

情報システム工学専攻は、次世代情報社会の基盤を担う人材を養成します。

すなわち、次世代ネットワーク環境におけるビッグデータを伝達・蓄積・解析するために必須となる、AI、IoT、コンピュータシステムなどに関する最先端技術を修得し、研究活動を通して、科学技術者としての高い倫理観と、時代の変化、多様化そしてグローバル化に対応できる能力を涵養することを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

システムデザイン工学研究科の情報システム工学専攻は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査に合格した者を、「次世代ネットワーク環境におけるビッグデータを伝達・蓄積・解析するために必須となる、AI、IoT、コンピュータシステムなどに関する最先端技術を修得し、専門分野における課題を解決する能力を備えた人物」として認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、情報システム工学分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識、異分野との統合によりあらたな知識・技術を生み出す創造的能力を持つ
- (2) 学術的・社会的課題に対して適切な問題を設定し、専門的な知識と技術を活用して、その問題解決に資する実践力を持つ
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、情報システム工学分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、他者との協働に必要なコミュニケーション力などを持つ

※標準修業年限は、修士課程2年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

システムデザイン工学研究科の情報システム工学専攻では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、「課題の発見と分析、解決手段の創案、効果の検証と評価を行う能力」を育むため、本専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) 情報システム工学分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目、分野が統合する学際性を涵養する科目を設置します。
- (2) 情報システム工学分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるために、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。
- (3) 情報システム工学分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

部門	科目名	開講年度区分		コマ	単位数	必修 選択	配当年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応
		2026	2027								
専門研究	情報システム工学特別研究Ⅰ	随時	随時	1	4	必	1	通年	実験・実習		DP2
	情報システム工学特別研究Ⅱ	随時	随時	1	4	必	2	通年	実験・実習		DP2
	システムデザイン工学セミナーⅠ	随時	随時	1	2	必	1	通年	演習		DP2
	システムデザイン工学セミナーⅡ	随時	随時	1	2	必	2	通年	演習		DP2
ネットワーク・ コンピュータ 工学	IoT 研究開発特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	ネットワークセキュリティ特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	先進コンピュータシステム特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	都市・地域におけるデジタル化特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	コンピュータネットワーク特論	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	非同期システム特論	●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	ワイヤレスシステムデザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
ソフトウェア 工学	ソフトウェア工学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	リファクタリング特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	サービスデザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	デジタル・フォレンジック	●	●	1	2	選	1・2	半期(後)	演習		DP1
データ サイエンス	マルチメディア工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	機械学習特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	データサイエンス特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	人工知能特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	知能ロボティクス特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	言語メディア特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	コミュニケーション音響学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
研究科 共通科目	システムデザイン工学先端 FBL-A	随時	随時	1	2	選	1・2	半期(前)	講義および演習		DP1
	システムデザイン工学先端 FBL-B	随時	随時	1	2	選	1・2	半期(後)	講義および演習		DP1
	システムデザイン工学最前線 A		●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	システムデザイン工学最前線 B	●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	情報数学特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
その他	信号処理応用特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
研究者 教養科目 (6単位必修)	海外サイエンス・プログラム	○	○	集中	2	選	1・2	集中	演習	海外英語 短期研修	DP3
	アカデミック・プレゼンテーション	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3
	アカデミック・ライティング	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)			DP3
	研究者倫理	○●	○●	1	2	必	1	半期(前/後)	講義および演習	オープン 科目	DP3
	科学技術社会論	○●	○●	1	2	必	1・2	半期(前/後)	講義および演習	オープン 科目	DP3
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	講義		DP3
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3
	技術経営学特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3

注) 開講区分欄 「○●」=昼夜開講、「○」=昼間開講、「●」=夜間開講、「随時」=随時開講

2026 年度カリキュラム

情報システム工学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

目的	部門	1 年		2 年				
		前期	後期	前期	後期			
専門性の涵養	専門研究	情報システム工学特別研究 I ①		4	情報システム工学特別研究 II ①	4		
		システムデザイン工学セミナー I ①		2	システムデザイン工学セミナー II ①		2	
	ネットワーク・コンピュータ工学	先進コンピュータシステム特論	2	都市・地域におけるデジタル化特論	2	IoT 研究開発特論	2	
		非同期システム特論	2	コンピュータネットワーク特論	2	ネットワークセキュリティ特論	2	
	ソフトウェア工学	ソフトウェア工学特論		2	リファクタリング特論	2	サービスデザイン特論	2
					デジタル・フォレンジック	2	デジタル・フォレンジック	2
	データサイエンス	人工知能特論		2	データサイエンス特論	2	機械学習特論	2
		知能ロボティクス特論		2	言語メディア特論	2	マルチメディア工学特論	2
					コミュニケーション音響学特論	2	言語メディア特論	2
	研究科共通科目	システムデザイン工学 先端 FBL - A		2	システムデザイン工学 先端 FBL - B	2	システムデザイン工学 先端 FBL - A	2
		システムデザイン工学 最前線 B		2			システムデザイン工学 最前線 A	2
		情報数学特論		2			情報数学特論	2
	その他						信号処理応用特論	2
	学際性の涵養	研究者教養科目	総合技術特別講義		2	総合技術特別講義		2
			技術経営学特論 (集中)		2	融合技術戦略特論 (集中)		2
国際性の涵養	研究者教養科目	海外サイエンス・プログラム		2	海外サイエンス・プログラム		2	
倫理観の涵養		アカデミック・プレゼンテーション	2	アカデミック・ライティング	2	(アカデミック・プレゼンテーション)	2	
	研究者倫理	2	研究者倫理	2	(研究者倫理)	2		
	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2		

※①はリサーチワーク科目、それ以外はコースワーク科目。

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

《情報システム工学専攻》

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
阿倍博信 5号館 551002B hironobu.abe@ mail.dendai.ac.jp	データベース、ウェブ情報学・サービス情報学、知能情報学、エンタテインメント・ゲーム情報学	・マルチメディアコンテンツの生成・解析技術 ・IoTデバイスが生成した映像、音声、テキストなどのマルチメディアデータの収集・蓄積技術、分析・活用技術
荒川俊也 5号館 51002A arakawa.t@mail. dendai.ac.jp	スマート畜産／農業・デジタル防災・ヒューマンファクタ・機械学習・生体情報処理	・乳牛の疾病予測手法や個体識別 ・ゲーミフィケーションを活用した津波避難時行動変容システム ・生体AIを用いた運転アドバイスシステム
阿部清彦☆ 5号館 50915A kiyohiko.abe@ mail.dendai.ac.jp	ソフトウェア工学、ヒューマンインタフェース	・ソフトウェアの自動バグ修正に関する研究 ・視線や瞬目情報などを用いた入力インタフェースに関する研究
上野洋一郎 5号館 50811B ueno416@mail. dendai.ac.jp	コンピュータアーキテクチャ、非同期式回路、ネットワーク応用技術	・デジタル回路やCPUの可視化 ・仮想環境を活用した高信頼化システム ・インテグラルイメージング技術
大山航 5号館 50903B w.ohyama@mail. dendai.ac.jp	パターン認識、機械学習、画像センシング	・署名照合などのバイオメトリクス ・パターン認識メディア理解 ・画像センシング技術の実応用
小川猛志 5号館 50813A t.ogawa@mail. dendai.ac.jp	ネットワーク	・IoT・LPWAN・DTN・P2P等の各種ネットワーク、ブロックチェーン、エッジコンピューティング、及びそれらの応用サービス
小篠裕子 5号館 50901B ozasa@mail. dendai.ac.jp	知覚情報処理、コンピュータビジョン	・未知物体検出と自律学習 ・ハイパースペクトル画像認識 ・ロボットの色知覚 ・視覚拡張VR
川勝真喜 5号館 50903A kawakatu@mail. dendai.ac.jp	生体信号処理、医用福祉工学	・ブレインコンピュータインターフェースの開発 ・座面センサから脈拍数の推定 ・ハイレゾ音源がヒトに与える影響

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
並川 健一 5号館 51114B namikawa@mail. dendai.ac.jp	数論	・保型表現論・岩澤理論
新津 靖 5号館 51017 yniitsu@mail. dendai.ac.jp	3D-CAD、図形科学、画像計測、計測工学	・高精度3次元画像計測法の開発と応用 ・教育用3D-CADシステムの開発 ・高精度加速度開発と耐震工学への応用
前田 英作 5号館 50915B maeda.e@mail. dendai.ac.jp	データ科学・機械学習	・マルチモーダル対話知能システム ・自然原理を利用した画像認識理解 ・時系列信号&映像解析
松井 加奈絵 5号館 50812B matsui@mail. dendai.ac.jp	情報学	・地域課題解決型データ流通プラットフォーム ・知識共有プラットフォーム
宮川 治 5号館 50917A miya@mail.dendai. ac.jp	ソフトウェア設計／教育工学（プログラミング）	・初学者のコーディングに関する研究 ・プログラミング教育の支援に関する研究
八槇 博史 5号館 50812A yamakih@mail. dendai.ac.jp	ネットワークセキュリティ・人工知能	・人工知能を用いたサイバー攻撃への対策 ・自然言語処理技術による詐欺の検出と対策 ・ドローンなど自律移動型機械のセキュリティ

☆：専攻主任

デザイン工学専攻

Design Engineering and Technology

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

授業科目配当表

カリキュラムマップ

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

デザイン工学専攻

人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

デザイン工学専攻は、複数の分野の技術や知識が融合する場において、実践的かつ先見性をもって問題を解決し、あらたな「モノ・サービス・空間」を創造し、我々の生活を変革できる人材を養成します。

そのために、現状の課題のみならず、将来に得られる結果をより良くすることを志向したデザイン思考による問題解決ができる能力及びユーザ・社会・環境に関する知識と関連する最新かつ幅広い技術を、研究活動を通して主体的に習得するとともに、科学技術者としての高い倫理観と、時代の変化、多様化そしてグローバル化に対応できる能力を涵養することを目的とします。

学位授与の方針（ディプロマポリシー）

システムデザイン工学研究科のデザイン工学専攻は、科学技術で社会に貢献できる人材の育成を使命とし、所定の期間在学し（※）、必要な単位を修得し、次の学修成果を上げ、学位論文審査に合格した者を、「プロダクトデザイン、サービスデザイン、空間デザインなどのデザイン工学分野における十分な基礎学力、さらに高度な専門知識を修得し、専門分野における課題を解決する能力を備えた人物」として認定し、修士の学位を授与します。

- (1) 実学尊重を旨として、デザイン工学分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識、異分野との統合によりあらたな知識・技術を生み出す創造的能力を持つ。
- (2) 学術的・社会的課題に対して適切な問題を設定し、専門的な知識と技術を活用して、その問題解決に資する実践力を持つ。
- (3) 「技術は人なり」の精神のもと、デザイン工学分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、他者との協働に必要なコミュニケーション力などを持つ。

※標準修業年限は、修士課程2年

教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

システムデザイン工学研究科のデザイン工学専攻では、学士課程で養った教養、専門知識を基礎として、「課題の発見と分析、解決手段の創案、効果の検証と評価を行う能力」を育むため、本専攻のディプロマ・ポリシーで定めた資質・能力を修得させるために、以下の教育課程編成の方針に従って、科目、研究指導、教育プログラムを体系的に実施します。

- (1) デザイン工学分野において、高度な専門知識および関連分野の基礎知識を身につける科目、分野が統合する学際性を涵養する科目を設置します。
- (2) デザイン工学分野の課題を設定し、それを解決し発表できる実践力を身につけさせるた

めに、国内外の文献調査、適切な実験・分析・解析など、指導教員などとの議論、学会発表、学術論文発表などの研究指導を実施します。

- (3) デザイン工学分野において、高度専門技術者、研究者および設計者として必要な教養や倫理観、コミュニケーション力などを身につける科目もしくは教育プログラムを設置します。

2026・2027年度 授業科目配当表 デザイン工学専攻 修士課程

[2026年度入学者カリキュラム]

部門	科目名	開講年度区分		コマ	単位数	必修 選択	配当 年	配当期	授業形態 (主)	備考	DP 対応
		2026	2027								
専門研究	デザイン工学特別研究Ⅰ	随時	随時	1	4	必	1	通年	実験・実習		DP2
	デザイン工学特別研究Ⅱ	随時	随時	1	4	必	2	通年	実験・実習		DP2
	システムデザイン工学セミナーⅠ	随時	随時	1	2	必	1	通年	演習		DP2
	システムデザイン工学セミナーⅡ	随時	随時	1	2	必	2	通年	演習		DP2
プロダクト デザイン	生体情報システムのデザイン特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	信号処理応用特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	プロダクトデザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	デザインエンジニアリング特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	共創・デザイン特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
サービス デザイン	コミュニケーション音響学特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	サービスデザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	教育システム工学特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	社会音響学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	都市・地域におけるデジタル化特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	マルチメディア工学特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	ネットワークセキュリティ特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
空間 デザイン	ワイヤレスシステムデザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	生態学的デザイン特論	○●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	ヒューマンメディア環境特論	○●		1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	環境デザイン特論		○●	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	建築空間特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	地域施設計画特論	○	○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
専攻共通科目	近代建築特論		○	1	2	選	1・2	半期(後)	講義		DP1
	デザイン論	○●	○●	1	2	選	1	半期(後)	講義		DP1
研究科 共通科目	システムデザイン工学先端 FBL-A	随時	随時	1	2	選	1・2	半期(前)	講義および演習		DP1
	システムデザイン工学先端 FBL-B	随時	随時	1	2	選	1・2	半期(後)	講義および演習		DP1
	システムデザイン工学最前線 A		●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	システムデザイン工学最前線 B	●		1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
	情報数学特論	○●	○●	1	2	選	1・2	半期(前)	講義		DP1
研究者 教養科目 (6単位必修)	海外サイエンス・プログラム	○	○	集中	2	選	1・2	集中	演習	海外英語 短期研修	DP3
	アカデミック・プレゼンテーション	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3
	アカデミック・ライティング	○●	○●	1	2	選	1	半期(前/後)	講義		DP3
	研究者倫理	○●	○●	1	2	必	1	半期(前/後)	講義および演習	オープン 科目	DP3
	科学技術社会論	○●	○●	1	2	必	1・2	半期(前/後)	講義および演習	オープン 科目	DP3
	総合技術特別講義	●	●	1	2	選	1・2	通年	講義		DP3
	融合技術戦略特論		○	1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3
	技術経営学特論	○		1	2	選	1・2	半期(前)	講義	集中講義	DP3

注1) 開講区分欄 「○●」= 昼夜開講、「○」= 昼間開講、「●」= 夜間開講、「随時」= 随時開講

2026 年度カリキュラム
デザイン工学専攻 修士課程 カリキュラムマップ

目的	部門	1年		2年				
		前期	後期	前期	後期			
専門性の涵養	専門研究	デザイン工学特別研究Ⅰ ①		4	デザイン工学特別研究Ⅱ ①	4		
		システムデザイン工学セミナーⅠ ①		2	システムデザイン工学セミナーⅡ ①		2	
	プロダクトデザイン	デザインエンジニアリング特論	2	生体情報システムのデザイン特論	2	プロダクトデザイン特論	2	
				共創・デザイン特論	2	信号処理応用特論	2	
				コミュニケーション音響学特論	2	共創・デザイン特論	2	
	サービスデザイン			教育システム工学特論	2	サービスデザイン特論	2	
				都市・地域におけるデジタル化特論	2	マルメディア工学特論	2	
						ネットワークセキュリティ特論	2	
	空間デザイン	生態学的デザイン特論	2	ヒューマンメディア環境特論	2	ワイヤレスシステムデザイン特論	2	
		地域施設計画特論	2		地域施設計画特論	2	環境デザイン特論	2
		建築空間特論	2		建築空間特論	2	近代建築特論	2
	専攻共通科目		デザイン論	2		デザイン論	2	
	研究科共通科目	システムデザイン工学先端 FBL - A	2	システムデザイン工学先端 FBL - B	2	システムデザイン工学先端 FBL - A	2	
		システムデザイン工学最前線 B	2		システムデザイン工学最前線 A	2	システムデザイン工学先端 FBL - B	2
		情報数学特論	2		情報数学特論	2		
学際性の涵養	研究者教養科目	総合技術特別講義		2	総合技術特別講義		2	
		技術経営学特論 (集中)	2		融合技術戦略特論 (集中)	2		
国際性の涵養		海外サイエンス・プログラム		2	海外サイエンス・プログラム		2	
倫理観の涵養		アカデミック・プレゼンテーション	2	アカデミック・ライティング	2	(アカデミック・プレゼンテーション)	2	
		研究者倫理	2	研究者倫理	2	(研究者倫理)	2	
	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2	科学技術社会論	2		

※①はリサーチワーク科目、それ以外はコースワーク科目。

研究指導を担当する教員の専門分野と指導研究テーマ

《デザイン工学専攻》

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
伊藤 俊介 ☆ 5号館 50807A itoh_shun@mail. dendai.ac.jp	環境心理学、建築計画学	<ul style="list-style-type: none"> ・学校建築のユーザーによる使われ方・評価 ・空間認知と wayfinding ・環境配慮行動へのデザインの影響 ・情報化による環境と生活行動の変容 ・Technical-transition 理論からみた環境デザインの変遷
伊藤 潤 5号館 50807A itojun@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> ・産業デザイン ・デザイン史 ・批判的デザイン学 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロダクトデザインの実践（産業デザイン） ・20世紀の工業製品（デザイン史） ・「デザイン学」「デザイン科学」に対する批判的視座（批判的デザイン学）
大泉 和也 5号館 50806B oizumi@mail. dendai.ac.jp	設計工学、システム工学	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルベースデザインによるユーザ参加デザイン ・ユーザ参加型システムデザイン手法 ・Socio-Technical システムのデザイン ・デザイン過程のサイバーフィジカルシステム ・デザインのためのモデルの生成と利用
北 直樹 5号館 50702A n.kita@mail. dendai.ac.jp	<ul style="list-style-type: none"> ・電波工学 ・電波伝搬 ・無線システムデザイン 	<ul style="list-style-type: none"> ・6G など、将来のワイヤレスシステム実現に向けた無線環境デザイン ・宇宙／海中通信などの非陸上通信ネットワーク（NTN：Non-Terrestrial Network）実現に向けた無線環境の把握とモデル化 ・ミリ波帯以上の高周波数帯における無線環境デザイン手法の検討 ・デジタルツインを活用した無線環境デザインと無線システムデザイン ・放送・通信電波を活用した各種センシングに関する検討

教員氏名 居室 メールアドレス	専門分野	指導している主な研究テーマ
斎藤 博人 5号館 50808A h.saito@mail. dendai.ac.jp	信号処理	<ul style="list-style-type: none"> ・話速変換を用いる会話におけるインタフェース設計 ・センサ信号から活動状況を分析・推定するアルゴリズムの開発 ・センサ信号を利用する新しいデバイスのデザイン ・デジタルフィルタ設計, 信号処理一般
穴戸 真 4号館 40905A shishido@mail. dendai.ac.jp	英語学・教育工学	<ul style="list-style-type: none"> ・情報科学分野におけるプレゼンテーション能力や英作文能力などの英語指導 ・教育工学、インストラクショナルデザインの理論を背景とした電子教材の作成 ・視線計測装置などを用いた学習者の行動データの計測、教材の学習効果の測定、評価
柴田 滝也 5号館 50717A tshibata@mail. dendai.ac.jp	感性情報処理学／景観デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・MR技術を用いた仮想空間コミュニケーションシステムの構築 ・AR技術を用いた行動誘導システムの構築 ・マルチモーダル感覚刺激と鼻部皮膚温度の関係分析とその応用
島田 尊正 5号館 50807B tshimada@mail. dendai.ac.jp	医用生体工学	<ul style="list-style-type: none"> ・脳神経の電気信号（脳波）を用いた四肢麻痺等の患者とのコミュニケーションシステム（ブレイン・コンピュータ・インターフェース） ・脳神経の電気信号（脳波）とAIを活用した人の情動の計測 ・光および音刺激を利用したストレス軽減によるストレス関連疾患予防システム ・楽器演奏能力が人の記憶能力に与える影響の解明
見正 秀彦 5号館 51116A h_mishou@mail. dendai.ac.jp	解析的整数論	<ul style="list-style-type: none"> ・ゼータ関数の解析的研究
山本 景子 5号館 50806A k.yamamoto@mail. dendai.ac.jp	ヒューマンコンピュータインタラクション	<ul style="list-style-type: none"> ・非言語情報を活用するIoT ・AR/VR技術を用いたインタラクティブシステム ・人工生命などの心を豊かにするインタフェース

☆：専攻主任

新入生へ
学修案内
A M J
A M D
履修案内

第3章 履修案内

1 皆さんへの情報伝達・連絡の方法

皆さんへの告示、通知、呼出しなどは、学生ポータルサイト DENDAI-UNIPA（以下、UNIPA（ユニパ））の掲示機能を通して連絡します。

授業の休講・補講、教室の臨時変更などの連絡をはじめ、履修登録（受講する科目の選択）や成績の発表、学生生活に必要な情報など、あらゆる連絡・手続きの手段として UNIPA を利用します。

自分で責任を持って、必ず毎日複数回 UNIPA を確認し、見落としや手続き漏れが生じないように注意して、充実した学生生活を送ってください。

UNIPA に関しては、第 3 章 17「学生ポータルサイト「DENDAI-UNIPA」」で案内していますので確認してください。



UNIPA 画面

UNIPA の掲示区分は以下の通りです。（運用が変更される場合、別途周知します。）

区分名称	内容
個別呼び出し	各部署から学籍番号指定で掲示を行う項目
教員からのお知らせ	教員からのお知らせ
休講・補講・教室変更	授業の休講・補講・教室変更
授業に関するお知らせ	履修・成績・進級・卒業・学力考査等
課外活動に関するお知らせ	学内外活動、学園祭、合同体育祭、スポーツ大会
奨学金に関するお知らせ	貸与奨学金、修学支援新制度、緊急給付金、学内各種奨学金、各種財団奨学金
学生生活に関するお知らせ	休学・退学手続き、学費延納手続き、住所変更等、修学指導、駐輪場利用手続き、ガイダンス、学研災、学研賠、加入証明書、在学証明書、健康診断証明書等、実習用定期、学生食堂、自動販売機、ウォータースタンド、教科書販売、勧誘、キャリアガイダンス、企業セミナー、資格取得等
健康相談室・学生相談室のお知らせ	健康診断、特殊健康診断、クラブ健診

なお、掲示タイトルには対象キャンパス名がついています。

- ・千住キャンパスの学生向け掲示： 千) 掲示タイトル
- ・鳩山キャンパスの学生向け掲示： 鳩) 掲示タイトル
- ・両キャンパスにまたがる掲示： 千/鳩) 掲示タイトル

※ただし、全キャンパス共通で開催するキャリア支援の行事等についてはキャンパス名を省略するなどの例外もあります。

2 履修登録

授業科目配当表、時間割表をもとに研究指導教員に確認のうえ、指示された方法に従い、履修登録を行ってください。履修登録をしていない科目（無届科目）の受講・受験は許されません。また、単位の認定も行われません。

履修登録の変更、追加は履修登録期間中、履修登録確認及び修正期間中に UNIPA で行ってください。履修登録の詳細（方法や期間）は、掲示等で案内します。

3 履修することができる授業科目

① 自分の所属する専攻の授業科目

② システムデザイン工学研究科内の他専攻の授業科目

システムデザイン工学研究科内の自己の所属する専攻に配当されていない授業科目は、学習上必要な場合、研究指導教員の許可を得て、UNIPA にて履修登録をすることができます。履修科目数の制限はありませんが、修了要件単位に算入することのできるシステムデザイン工学研究科内の他専攻の授業科目の単位は「他研究科の科目」「特例扱いの科目」等とあわせて 10 単位までです。

③ 本学学部・他研究科における授業科目

システムデザイン工学研究科では、下記の科目は、研究指導教員及び専攻主任の承認に基づき、事前に科目担当教員の承認印を得た①は聴講願、②は履修登録願を東京千住キャンパス事務部（教務担当）へ提出することで①は聴講、②は履修登録の許可を行います。

① 本学学部の科目

聴講のみ可能とします。単位認定は行いません。

② 本学大学院の他の研究科の科目

「他専攻の科目」「特例扱いの科目」等とあわせて 10 単位を上限として修了要件単位に算入することができます。

④ 特例扱い

以下のものについては、所定の要件を充たせば本学で履修したものと同様に扱われます。「他専攻の科目」「特例扱いの科目」等とあわせて 10 単位を上限として、修了要件単位に算入できます。研究指導教員と相談のうえ、東京千住キャンパス事務部（教務担当）で手続きを行い、システムデザイン工学研究科委員長の承認を得る必要があります。詳細は大学院学則第 16 条～第 18 条（別冊：大学院学生生活の手引きに掲載）を参照してください。

(1) 他大学の大学院（東京理工系 4 大学・首都大学院コンソーシアム）または外国の大学院において履修した授業科目

- (2) 入学前の既修得単位
- (3) 他の大学院または研究所等における研究指導

⑤ オープン科目

「研究者倫理」、「科学技術社会論」は東京千住キャンパスと埼玉鳩山キャンパスのどちらの学生も受講できるキャンパスを横断した科目です。受講形態は Zoom 等を利用した遠隔授業です。

受講を希望する学生は、必ずシラバスで受講方法を確認の上、履修登録を行ってください。

4 他大学院との単位互換協定に基づく授業科目履修の扱い

システムデザイン工学研究科では、大学間の学術交流を通じて大学院における教育・研究活動のより一層の充実を図るため、首都大学院コンソーシアム、東京理工系 4 大学と単位互換協定を結んでいます。

本協定により、希望者は所定の手続きをとることにより、各大学院の授業科目を受講することができます。これにより取得した単位は、本学システムデザイン工学研究科委員会が教育上有益と認めた場合、その取得した単位のうち 10 単位を超えない範囲で、システムデザイン工学研究科における授業科目の履修により取得したものとしてみなされます（大学院学則第 16 条）。この協定に基づく履修手続きの詳細は履修登録期間前にお知らせします。科目によっては、有料となる場合があります。

協定大学

- ・ 首都大学院コンソーシアム大学
共立女子大学、順天堂大学、専修大学、中央大学、東京理科大学、東洋大学、日本大学、法政大学、明治大学
- ・ 東京理工系 4 大学
東京都市大学、工学院大学、芝浦工業大学

5 昼夜開講制の実施

システムデザイン工学研究科では大学院設置基準第 14 条に基づく教育方法の特例（いわゆる「昼夜開講制」）を実施しています。具体的には、授業科目によっては昼間 4 時限制の時間帯に加え夜間 D 5 時限（18：00～19：30）、D 6 時限（19：40～21：10）の時間帯を設けています。

6 授 業

① 授業科目・単位等

各専攻に開講されている授業科目及び単位数は「授業科目配当表」に掲載されている通りです。

② 学 期

前学期 4月1日～9月4日まで

後学期 9月5日～翌年3月31日まで

詳細はその年の学事日程を確認してください。

③ 授業時間

月曜日～金曜日				土曜日			
大 学 院		工学部 未来科学部 システムデザイン工学部		工学部第二部		左記の全所属	
						N1 限	9:00～10:30
1 限	9:20～10:50	1 限	9:20～10:50				休憩 10 分
	休憩 15 分		休憩 15 分			N2 限	10:40～12:10
2 限	11:05～12:35	2 限	11:05～12:35				昼休憩 60 分
	昼休憩 70 分		昼休憩 70 分			N3 限	13:10～14:40
3 限	13:45～15:15	3 限	13:45～15:15				休憩 10 分
	休憩 15 分		休憩 15 分			N4 限	14:50～16:20
4 限	15:30～17:00	4 限	15:30～17:00				休憩 10 分
	休憩 60 分		休憩 15 分	N5 限	16:30～18:00	N5 限	16:30～18:00
D5 限	18:00～19:30	5 限	17:15～18:45		休憩 10 分		休憩 10 分
	休憩 10 分			N6 限	18:10～19:40	N6 限	18:10～19:40
D6 限	19:40～21:10				休憩 10 分		休憩 10 分
				N7 限	19:50～21:20	N7 限	19:50～21:20

④ 休講・補講・集中講義

(1) 休講

学校行事や科目担当教員の都合等で授業が休講になる場合は、原則掲示にて連絡します。

(2) 補講

授業回数が不足した場合には、補講を行います。補講の有無は科目担当教員によって指示され、日程は授業や掲示等で連絡します。

(3) 集中講義

授業科目によっては、授業期間外に集中して授業を行うことがあります。

なお、詳細な日程については、決まり次第、掲示等で連絡します。

⑤ 交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置について

交通機関のストライキ及び自然災害発生時等の授業措置については原則、下記のとりの対応となりますが、緊急事態の発生状況により別途授業措置が行われる場合があります。この授業措置については、大学発表の情報をポータルサイト及びメールにて周知します。また授業開始以後に発令された場合には、学内放送等でも最新情報を発信しますので注意してください。

(1) 交通機関がストライキ等により運休の場合

首都圏 JR 各線及び東京千住キャンパス最寄駅（北千住駅・京成関屋駅）に乗り入れる私鉄・地下鉄各線がストライキ等により運休と報道された場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前 6 時において運休が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
 - 2) 午前 6 時において運休の場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。
 - 3) 午前 9 時において運休の場合は、第 3・4 時限目の授業は休講となります。
 - 4) 午後 3 時において運休の場合は、第 D5・D6 時限目の授業は休講となります。
- ※その他の私鉄のみがストライキ等により運休のときは、平常通り授業を行います。

(2) 台風等による暴風警報が発令された場合

東京 23 区に暴風警報が発令されている場合の授業の取扱いは、次のとおりです。

- 1) 午前 6 時において暴風警報が解除されている場合は、平常通りの授業を行います。
- 2) 午前 6 時において暴風警報が発令されている場合は、第 1・2 時限目の授業は休講となります。
- 3) 午前 9 時において暴風警報が発令されている場合は、第 3・4 時限目の授業は休講となります。
- 4) 午後 3 時において暴風警報が発令されている場合は、第 D5・D6 時限目の授業は休講となります。

なお、暴風警報が発令されていない場合でも、気象状況は時間の経過とともに変化することがありますので、状況に応じて休講の措置をとる場合があります。大学発表の情報を必ず確認してください。

また、授業開始以後に暴風警報が発令された場合は、学内放送、ポータルサイト及びメールで授業措置の情報を発信します。

(3) その他、緊急事態の状況によっては、前述にかかわらず別途の措置を講ずる場合があります

ます。その場合には、直ちにポータルサイトへ掲載及びメール送信するので、各自確認してください。

7 シラバス（講義要目）

シラバスには、科目名、配当学年、配当期、単位数、必選区分、担当者名、目的概要、達成目標、関連科目、教科書名、評価方法、テーマ・内容、オフィスアワー、履修上の注意等の授業科目に関する情報が掲載されています。※

しっかりと授業科目の概要をつかんだ上で履修計画を作成するとともに、常時確認することにより確実に知識を積み重ねていってください。

なお、シラバスは UNIPA にて閲覧できます。

※ 2021 年度より、シラバスには科目ナンバリングによる科目番号を掲載しています。科目ナンバリングについての詳細は、以下の URL を参照してください。

https://www.dendai.ac.jp/about/campuslife/syllabus/syllabus/tokyo_senju.html

8 学力考査及び成績評価

① 学力考査

学力考査は、原則としてその授業の終了する学期末あるいは、学年末に行われます。授業科目によっては、平常の成績またはレポート、口頭試問等をもって学力考査に代えることがあります。

なお、学力考査は履修登録した授業科目以外受験することはできません。

② 成績評価

成績は S・A・B・C 及び D の評価で表記されます。

成績評価は次の評点に対応します。

可否	成績評価	GP (Grade Point)	評点	成績評価基準
合格 (単位修得)	S	4	90点~100点	【極めて優秀】：科目の達成目標を十分に達成し、自在に応用できる水準にあり、より高度な内容に容易に進むことができる。
	A	3	80点~89点	【優秀】：科目の達成目標を達成し、応用できる水準にあり、より高度な内容に進むことができる。
	B	2	70点~79点	【妥当】：科目の達成目標を達成し、部分的ではあるが応用できる水準にある。しかし、より高度な内容に進むためには、自己学習をしておくことが望ましい。
	C	1	60点~69点	【最低限の達成】：科目の達成目標の最低水準に達している。しかし、習得した知識・スキルを応用し、より高度な内容に進むために十分な自己学習を要する。
不合格 (単位未修得)	D	0	0点~59点	科目の達成目標を満たしていない。
	—	0	放棄	試験などの学力考査を受験しない場合や、授業への出席状態が不十分な場合など、履修を途中で放棄したとみなされた。

※自由科目は、GPA 計算には含まれません。

※ R…認定された科目。GPA 計算には含まれません。

※成績証明書には D・—は表記されません。

※ $GPA = \frac{\text{各科目の単位数} \times \text{当該科目で得た GP (Grade Point)}}{\text{履修した科目の単位数の合計}}$

※ GPA は小数点第 4 位を四捨五入した値で、履修中の科目は含めません。

③ 成績通知

前年度末までの成績通知は 3 月頃に、前期末までの成績通知は後期開始前 9 月に行います。

成績通知の方法、期間は UNIPA にて知らせます。

9 研究指導実施体制

① 指導体制

- (1) 学生の希望に基づき、研究指導教員を専攻が決定します。
- (2) 研究指導教員は、学生と相談の上、副研究指導教員 1 名を決定し、多角的な視野に立った指導を行う複数指導体制を整えます。場合によっては、研究指導教員の責任において、指導体制を変更することを可能とします。
- (3) 副研究指導教員は、学生が所属する専攻もしくは他専攻の研究指導教員の資格を有

する教員が担当します。

② 研究指導内容

- (1) 研究指導教員及び副研究指導教員は、研究指導計画に基づき、学生と面談を行い、修了までの研究計画の策定について指導・助言し、計画を踏まえて、研究指導方針を明示します。また、履修計画についても指導・助言を行います。
- (2) 研究指導教員及び副研究指導教員は、修了に向けて定期的に研究活動の進捗状況を確認し、必要に応じて研究課題、研究方法、研究スケジュール等の見直し・修正を学生に指導・助言します。
- (3) 研究指導教員は、研究指導の一環として、必要に応じて国内外の学会等における学生の論文発表等の指導を実施します。
- (4) 副研究指導教員は、半期ごとに、研究指導面談を行うことが必須となっています。
- (5) 本研究科が定める「修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準」に基づき、研究指導教員を含む複数の審査員が修士論文の審査を行います。

③ 研究指導スケジュール

各専攻における研究指導スケジュールは次ページの通り。

システムデザイン工学研究科 研究指導スケジュール

学年	学期	情報システム工学専攻/デザイン工学専攻	
1年	前期	新入生ガイダンス 履修指導 4月 副研究指導教員の決定 5月 研究指導教員・副研究指導教員との面談（研究計画の策定・研究指導内容および方法を明示）	
		6月（下旬）～7月（中旬）副研究指導教員による研究指導面談	
		7月（月上旬）システムデザイン工学セミナーⅠ発表会	
		8月	
	後期	9月 研究指導教員・副研究指導教員との面談（当学期の研究計画を見直し）	
		10月	
		11月（下旬）～12月（中旬）副研究指導教員による研究指導面談	
		12月（月上旬）システムデザイン工学セミナーⅠ発表会	
		1月	
		2月	
		3月	
		2年	前期
	5月		
	6月（下旬）副研究指導教員による研究指導面談		
7月（月上旬）～7月（中旬）システムデザイン工学セミナーⅡ発表会			
8月			
後期	9月 研究指導教員・副研究指導教員との面談（当学期の研究計画を見直し）		
	10月		
	11月（下旬）～12月（中旬）副研究指導教員による研究指導面談		
	12月（月上旬）システムデザイン工学セミナーⅡ発表会		
	1月 修士論文/研究成果報告書予稿・修士論文/研究成果報告書提出/公聴会		
	2月 修士論文及び研究成果発表会		
	3月 保存用修士論文/研究成果報告書提出		

情報システム工学専攻は修士論文、デザイン工学専攻は修士論文または研究成果報告書
 ※スケジュールは予定であり、変更となる場合があります。詳細は各専攻にて確認してください。

10 進級要件

1年生から2年生への進級には、休学期間を除き、12ヶ月以上在籍し、必要な学費及びその他費用を納入していることが必要です。2年生に進級するのは4月のみであり、9月に2年生に進級することはありません。

進級についての問い合わせは、学生支援センター（学生厚生担当）（2号館3階）に相談してください。

11 修了要件

① 修了単位

課程を修了するためには、以下の全ての要件を満たす必要があります。

- (1) 修士課程に2年以上在学していること（優れた業績をあげた者については、1年以上の在学で修了を認めることができる）。
- (2) 自由科目を除き、各専攻が定める次の要件を満たす所要科目30単位以上を修得していること。
- (3) 所属する専攻に配当されている、「必修科目の単位の全部」及び「研究者教養科目の中から6単位以上」を修得していること。
- (4) 必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査および最終試験に合格すること。また、デザイン工学専攻においては、修士課程の目的に応じ適当と認められるときは、特定の課題についての研究の成果（研究成果報告書）の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

【情報システム工学専攻】

- | | |
|---|-------|
| (1) 情報システム工学特別研究Ⅰ、情報システム工学特別研究Ⅱ（必修） | 各4単位 |
| (2) システムデザイン工学セミナーⅠ、システムデザイン工学セミナーⅡ（必修） | 各2単位 |
| (3) 研究者教養科目（研究者倫理および科学技術社会論は必修） | 6単位 |
| (4) 専門科目（ネットワーク・コンピュータ工学部門、ソフトウェア工学部門、データサイエンス部門） | 8単位以上 |

【デザイン工学専攻】

(1) デザイン工学特別研究Ⅰ、デザイン工学特別研究Ⅱ（必修）	各 4 単位
(2) システムデザイン工学セミナーⅠ、システムデザイン工学セミナーⅡ（必修）	各 2 単位
(3) 研究者教養科目（研究者倫理および科学技術社会論は必修）	6 単位
(4) プロダクトデザイン部門、サービスデザイン部門、空間デザイン部門の内、 2 部門の専門科目	各 4 単位以上

② 修士論文またはこれに代わる研究成果の審査基準

修士論文または特定課題の研究成果は、公表されているディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）に基づき、以下の基準で審査されます。なお、論文審査または特定の課題についての研究成果の審査に透明性、客観性を持たせるため研究成果の発表は、公聴会形式で行われ、研究指導教員を含む審査員による口答試問が行われます。

- (1) 学位申請者が取り組んだ研究または特定の課題をまとめたものであること。
- (2) 研究課題の設定が修士として妥当なものであり、研究遂行および論文作成または論文に代わる作品などの制作にあたっての問題意識が明確かつ倫理性を保持していること。
- (3) 設定した研究課題の研究に際し、適切な研究方法、調査・実験などを行い、それに基づく具体的な分析・考察がなされていること。
- (4) 論文または研究成果物の報告書の記述（本文、図表、文献、引用など）が適切であり、首尾一貫した論理構成となっていること。
- (5) 当該研究領域において、独自の価値（新規性、有用性など）、信頼性を有するものとなっていること。
- (6) 論文審査における学位論文などの発表と質疑に対する応答が、論理的かつ明確に行われていること。

③ 修了見込証明書

2 年次に進級した学生は 4 月上旬より修了見込証明書を発行できます。

修了見込証明書の発行開始日については、掲示にて周知します。

※休学中は修了見込証明書が発行できません。必要に応じ、専攻に相談してください。

④ 早期修了条件

「優れた業績をあげた者」については、1 年間もしくは 1.5 年間の在学期間での修了を認めます。以下の条件を充足した学生について早期修了を認めます。希望する場合は、半年前までに研究指導教員に相談してください。

- (1) 1 年間終了時、もしくは 1.5 年間終了時に修了することを希望していること。

- (2) 入学後の1年間もしくは1.5年間で、各専攻が定める要件を満たす所要科目30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文またはこれに代わる研究成果物の審査及び最終試験に合格すること。
- (3) 修士論文またはこれに代わる研究成果物関連科目※の成績評価が「A」以上であること。また、学術論文誌、学会誌等に1編以上の学術論文（査読付）の採録が確定していること。ただし、デザイン工学専攻においては、研究成果物を当該分野において公表し、権威ある賞を受けるなど高い評価を得た業績をもって学術論文（査読付）に代えることができます。この場合、当該専攻主任より、学術論文（査読付）と同等とみなし、それに代えることができると認められる旨の文書提出が必要です。
- (4) 研究指導教員、専攻主任及び研究科委員長が早期修了に相応しいと判断した者
※情報システム工学専攻は、「情報システム工学特別研究ⅠおよびⅡ」デザイン工学専攻は、「デザイン工学特別研究ⅠおよびⅡ」

⑤ 前期末修了（修了要件を満たさず修了延期になった者対象）

(1) 前期末修了の条件

2年次に合算して12ヶ月以上在学（休学期間は在学期間に含まない）した者を対象に前期末修了判定を実施します。判定時に休学中の者は対象としません。修了所要単位数など所定の修了条件を満たした時は、前期末修了（9月4日付）となります。

（所定の修了条件）

修了条件は入学した年度に学生に提示している修了条件を適用する。

(2) 前期末修了のための専門研究部門科目の取扱い

本人からの申し出があり、かつ専攻主任・研究指導教員が許可する場合は、必要となる専門研究部門科目※の履修が可能です。

※情報システム工学専攻は、「情報システム工学特別研究Ⅱ」および「システムデザイン工学セミナーⅡ」

デザイン工学専攻は、「デザイン工学特別研究Ⅱ」および「システムデザイン工学セミナーⅡ」

ただし、専門研究部門科目以外に未修得の必修科目がある場合は、未修得科目の開講で履修することとし、本取扱いの対象外となります。

履修登録については東京千住キャンパス事務部（教務担当）へ問い合わせてください。

12 学 位

システムデザイン工学研究科を修了した者については、大学院学則、本学学位規程の定めるところにより、修士の学位が授与されます。

本研究科が授与できる学位の種類及びそれに付記する専攻分野は次のとおりです。

修士課程

情報システム工学専攻 修士（工学）

デザイン工学専攻 修士（工学）

13 修士論文等の取扱い

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出及び審査手順については「東京電機大学学位規程」（別冊：大学院学生生活の手引きに掲載）及びそれに基づく手順内規等があるので、システムデザイン工学研究科委員長、研究指導教員等の指示に従ってください。

修士論文またはこれに代わる研究成果の提出スケジュール等については、修了年次に UNIPA 等で確認してください。

1. 修士論文

論文作成上の注意事項

- (1) 原稿は A4 版とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。

論文予稿の提出（参考：1 月下旬まで）

- ① 原稿は A4 版 4 枚とし、PDF ファイルで提出します。
- ② レイアウトについては「修士論文予稿見本」を参照してください。

詳細は修了年次生に UNIPA で案内をします。

※予稿は、専攻毎に取りまとめて公聴会までに配布します。

論文の提出（審査用）（参考：1 月下旬まで）

- ① 研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）に 1 部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「修士論文表紙見本」を参照してください。

論文の提出（大学保存用）（参考：2 月下旬まで）

最終版 1 部を PDF ファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生に UNIPA で案内します。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

論文審査

論文（審査用）提出後、研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）による論文審査が行われます。試問日程については、研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果発表会（参考：2月中旬）

発表会を開催します。

発表方法等は、1月初旬に UNIPA にて修了年次生へ詳細を連絡します。

2. 修士論文に代わる研究成果（デザイン工学専攻のみ）

研究成果報告書作成上の注意事項

研究成果物や研究成果報告書の提出形態は、研究テーマごとに異なりますので、研究指導教員（主査）の指示に従ってください。

なお、研究成果報告書作成に係わる注意事項は、次のとおりとなります。

- (1) 原稿は A4 版とし、Word 等で作成します。
- (2) 1 ページ目は、表紙とします。「修士論文表紙見本」を参照し、作成してください。
- (3) 本文、資料は通しページにします。
- (4) 行数、文字数の指定はありませんが左右 2 センチの余白をとります。

研究成果報告書予稿の提出（参考：1月下旬まで）

- ① 原稿は A4 版 4 枚とし、PDF ファイルで提出します。
- ② レイアウトについては「研究成果報告書予稿見本」を参照してください。
詳細は修了年次生に UNIPA で案内をします。

※予稿は、専攻毎に取りまとめて公聴会までに配布します。

研究成果報告書の提出（審査用）（参考：1月下旬まで）

- ① 研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）に 1 部ずつ直接提出してください。
- ② 表紙は「研究成果報告書表紙見本」を参照してください。

研究成果報告書の提出（大学保存用）（参考：2月下旬まで）

最終版 1 部を PDF ファイルに変換し、提出してください。

詳細は修了年次生に UNIPA で案内をします。

※ CD-ROM 化して本学図書館で永久保存されます。

研究成果審査

研究成果報告書（審査用）提出後、研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）による審査が行われます。

試問日程については、研究指導教員（主査）、副研究指導教員（副査）の指示を受けてください。

修士論文及び研究成果公聴会

公聴会を開催する予定です。

発表方法等は、1月初旬にUNIPAにて修了年次生へ詳細を連絡します。

【修士論文予稿見本】 【研究成果報告書予稿見本】

論文テーマ（和文名）
論文テーマ（英文名）

学籍番号 氏名
研究指導教員 教授 氏名

本 文

【修士論文表紙見本】 【研究成果報告書表紙見本】

修 士 論 文 ※
論文テーマ（和文名）
論文テーマ（英文名）

東京電機大学大学院
システムデザイン工学研究科
修士課程〇〇〇専攻
学籍番号 氏名
研究指導教員 教授 〇〇 〇〇

※研究成果報告書の場合は、「修士論文」を「研究成果報告書」としてください。

14 先端科学技術研究科博士課程（後期）進学

先端科学技術研究科博士課程（後期）に進学を希望する者は、できるだけ多くの科目を幅広く履修しておくことが望めます。

なお、詳細は先端科学技術研究科博士課程（後期）の入試募集要項を参照してください。

15 留学・海外語学研修

本学では、海外の協定校等での留学プログラムに参加することを推奨しています。3週間程度の語学留学から1年未満の長期留学までさまざまな形態があるので、事前の準備等、よく検討の上、計画を立ててください。

(1) 留学の種類

1) 海外留学（単位認定あり）

- ① ウィスコンシン大学ミルウォーキー校（アメリカ）、8月に実施（約2週間）、募集は4月頃
- ② クイーンズランド工科大学（オーストラリア）、2月～3月に実施（約3週間）、募集は10月頃

※年度により実施の有無や時期等は変更になる場合があります。

その他、単位認定のない学部生を対象とした研修がありますが、応募者数等により大学院生の派遣も検討しますので、国際センターに問い合わせてください。

2) 協定校留学

本学と外国の大学との学生交流協定によって留学する制度です。協定校への留学に関する要望については個別に対応していますので、国際センターに問い合わせをしてください。

3) 認定校留学

留学希望者本人が外国の大学等から留学または受入れ許可を取り、本学がこれを許可し、留学する制度です。

※本学では学生諸君が在学中に海外の大学に留学することを制度として認めています。

留学とは外国の大学またはこれに相当する高等教育機関に一定期間在学して教育を受けることを言います。事前に所定の申請手続きを行い留学と認められる必要があります。事前の許可を受けずに渡航したり、相手先大学の正規教育課程以外のコースで学んだりしても、本学からの留学とは認められないのでご注意ください。

(2) 海外留学プログラムへの参加にあたり

留学や海外語学研修に関する相談については、国際センターで随時対応しています。

1) 海外短期留学プログラム

これまでに実施した語学留学の募集要項や参加した学生の報告等を国際センターホームページ上（<https://www.dendai.ac.jp/about/international/>）で閲覧できますので、準備にあたってはこれらを参考にしてください。

2) 長期留学

長期の留学を希望する場合には、語学力の向上を含めた準備が重要ですので十分に留意してください。特に英語圏に留学する場合は、IELTS（International English Language Testing System）などの受験とそのスコアが必要です。留学先により英語要件があり、それを満たすためには通常1年以上の準備期間が必要です。

また留学予定先大学等において履修を希望する授業科目や本学の履修などについて、留学前に学科及び東京千住キャンパス事務部の履修指導を受けてください。

(3) 国際センターについて

「国際センター」ではTDUの特色を活かした国際交流の実践に向けて、さまざまな支援を行っています。

国際センター千住ラウンジ（東京千住キャンパス 1号館 4階 10415号室 10時～17時）
「国際センター千住ラウンジ」では、常駐するスタッフに留学や大学生活についての相談ができます。また、留学生と日本人学生が交流できるスペースを設けています。

※今般の世界を取りまく情勢等により、海外留学プログラムが変更、延期、中止となる場合があります。詳しくは、国際センターまでお問い合わせください。

16 連携大学院協定研究所

本学大学院では、教育研究の充実を図るとともに、学術及び科学技術の発展に寄与することを目的とし、大学院生の研究指導を以下の研究機関と連携して行っています。

研究機関名
国立研究開発法人 理化学研究所
国立研究開発法人 産業技術総合研究所
一般財団法人 電力中央研究所
国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
国立研究開発法人 海上技術安全研究所
国立研究開発法人 情報通信研究機構
国立研究開発法人 物質・材料研究機構
日本放送協会放送技術研究所
独立行政法人 労働者健康安全機構
日本電信電話株式会社 NTT 物性科学基礎研究所
公益財団法人 相模中央化学研究所

17 履修証明プログラム

本学では、文部科学省の2014年度「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」に「国際化サイバーセキュリティ学特別コース（通称：CySec）」の設立を申請し、採択されました。本コースは、産業界を先導するサイバーセキュリティの専門家の養成を目的とした履修証明プログラムであり、社会人等学外から受講者を募集し、当該コース修了者に、履修証明書を交付することとしています。

2015年度より、履修証明プログラムとして、本コースの以下の7科目を、未来科学研究科情報メディア学専攻に設置しています。

これらの科目は、在学学生も履修することが可能で他専攻履修・他研究科履修にも対応しています。

なお、履修証明プログラムを修了するためには、通常の履修申告とは別にコース登録の申請が必要です。詳細は、東京千住キャンパス事務部（教務担当）窓口で問い合わせてください。

対象科目

- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅰ」
- 「サイバーセキュリティ基盤Ⅱ」
- 「サイバーディフェンス実践演習」（自由科目）
- 「セキュリティインテリジェンスと心理・倫理・法」
- 「デジタル・フォレンジック」
- 「情報セキュリティマネジメントとガバナンス」（自由科目）
- 「セキュアシステム設計・開発」（自由科目）

18 創造工学ユニット

社会の要請に応えられる科学者・技術者としての「広い視野に立って、多面的に事象を捉えることができる時代に適した学際的な力」を身に付けることを目的として、2021年度より、「創造工学ユニット」を設置いたしました。

本ユニットでは、社会的ニーズの高い研究領域として本学が定めた研究重点領域4分野に含まれる内容を学ぶことができます。

ユニット修了者には、修了認定証を発行いたします（履修申告とは別に、ユニット（プログラム）の申し込み（原則、入学した学期の申し込み）が必要です。申込期間は履修申告期間です。）。

ユニット（プログラム）を修了するには、対象科目から8単位以上の単位を修得することが条件となります。ただし、1科目以上は他専攻配当科目の単位を修得していることが必須となります。

（他専攻配当科目の単位も修士課程修了要件に含まれます（修了要件に参入することのできる単位は、「特例扱いの科目（他大学院科目等）」と合わせて10単位までです。詳細はP31を参照してください）。

2026年度は、以下の3ユニット（プログラム）に申し込むことができます。

①生体医工学ユニット 生体医工学実用化推進プログラム

目的概要	高度化、複雑化する医療機器の機器開発の観点から、生体医工学に必要な医学と工学に関する知識を身に着ける。 また、「ものづくり」において、個別医療機器の原理・構造、操作・運用や、障害者および高齢者の生活支援システム・機器の技術的知識、医療施設や高齢者施設のシステムの安心安全（保守・管理）に対する考え方を学び、医療機器の実用化・国際展開に必要な技術的知識を習得する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機器のものづくりの技術的知識を身につける。 ・医療機器の企画から実用化までの各ステップに関する知識を身につける。 ・医療機器に関する国際情勢・海外展開に関する知識を身につける。 ・人間の情報について理解する。 ・メカトロニクスの技術的知識を身につける。 ・システムの安全性の評価法を身につける。 ・高齢者・障害者の生活環境の計画に必要な基礎的知識や配慮事項などを知る。

プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
バイオメディカル・グローバリゼーション・エンジニアリング特論	東京千住	工学研究科 全専攻	2	前期	毎年度
国際化バイオメディカル・エンジニアリング特論 ※	埼玉鳩山	理工学研究科 全専攻			
先端バイオメディカル・エンジニアリング特論	東京千住 埼玉鳩山	理工学研究科 全専攻	2	後期	毎年度
医用工学・医療福祉機器特論	東京千住	KMJ/KMK/KMF	2	前期	毎年度
人間支援工学特論	東京千住	KMK	2	後期	毎年度
医用電子計測特論	東京千住	KMJ/KMC	2	前期	毎年度
レギュラトリーサイエンス特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	毎年度
医用電子機械工学特論	埼玉鳩山	RME	2	後期	毎年度
生体情報工学特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	偶数年度

※「バイオメディカル・グローバリゼーション・エンジニアリング特論」と「国際化バイオメディカル・エンジニアリング特論」は、同時開講

②情報ユニット サービスデザイン高度化のための先進情報工学プログラム

目的概要	人工知能、ビックデータ、IoT デバイスに関する技術が急速に発展し、産業応用も進んでいる中で、次世代技術を担う人材の養成が求められている。 これらの技術は、科学、工学、ビジネスのさまざまな分野において高い汎用性と強力な武器となりつつある。 既存学問領域の枠を超え、広い視野から問題を解決するためのスキルを磨く。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> 人工知能、ビックデータ、IoT デバイスに関する基礎知識、基礎技術 上記技術の適用先、サービスに合わせたシステム設計、モデリング、ソフトウェア開発 センサデバイス等のIoT 機器のデザインとリアルタイムデータの処理技術 データ科学、実験科学の基本技法

プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
IoT 特論	東京千住	FMI	2	前期	毎年度
機械設計プロセス特論	東京千住	FMR	2	前期	毎年度
最適化法特論	東京千住	FMR	2	後期	毎年度
知能システム特論	東京千住	FMI/FMR	2	後期	毎年度
信号処理応用特論	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	奇数年度
マルチメディア工学特論	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	奇数年度
システムデザイン工学先端 FBL-A (前田教授担当プロジェクト)	東京千住	AMJ/AMD	2	前期	毎年度
システムデザイン工学先端 FBL-B (前田教授担当プロジェクト)	東京千住	AMJ/AMD	2	後期	毎年度
計算機アーキテクチャ・高性能 計算特論	東京千住	KMC/FMI	2	前期	奇数年度
図形処理特論	埼玉鳩山	RMD	2	後期	偶数年度
組込みシステム特論	埼玉鳩山	RMD	2	前期	毎年度
言語・非言語情報特論	埼玉鳩山	RMD	2	後期	毎年度
音楽とデザイン特論	埼玉鳩山	RMD	2	前期	毎年度

③材料工学ユニット 材料工学実用化推進プログラム

目的概要	高度でかつ持続可能性の高い社会を実現する科学技術体系の観点から、材料工学に必要な理学と工学に関する素養を身につける。 また、「物理、化学、力学、計算」を基本として、応用領域としての「安全・安心」、「エネルギー・環境」、「情報」、「生体医工学」における材料の重要性とその課題に対する考え方を学び、知識と経験の集積および科学的探索手法によって、イノベーション創出を目指した学際領域への展開に必要な知識を習得する。
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・材料工学に関するものづくりの技術的知識を身につける。 ・材料の評価法を身につける。 ・材料の構造・機能デザインの技術的知識を身につける。 ・ものづくり科学の実用化に関する知識を身につける。 ・材料開発に関する国際情勢・海外展開に関する知識を身につける。 ・社会情勢の変化に連動して、材料の構造デザインに必要な基礎的知識や配慮事項などを知る。

プログラム対象科目

科目名	キャンパス	配当専攻	単位数	配当期	開講年度
半導体デバイス工学特論	東京千住	KMJ/KMS	2	後期	毎年度
半導体評価技術特論	東京千住	KMJ/KMH/KMS	2	後期	奇数年度
薄膜物性特論	東京千住	KMS	2	後期	偶数年度
分析化学特論	東京千住	KMS	2	後期	偶数年度
分子触媒化学特論	東京千住	KMS	2	前期	偶数年度
電気化学特論	埼玉鳩山	RMU	2	前期	奇数年度
有機合成化学特論	埼玉鳩山	RMU	2	前期	偶数年度
物理学特論 C	埼玉鳩山	RMU	2	前期	偶数年度
生体高分子特論	埼玉鳩山	RMB	2	後期	毎年度
材料力学特論	埼玉鳩山	RMM	2	前期	奇数年度
先端材料特論	埼玉鳩山	RMM	2	後期	奇数年度
薄膜材料工学特論	埼玉鳩山	RME	2	前期	偶数年度
パワーエレクトロニクス特論	埼玉鳩山	RME	2	後期	奇数年度

19 学生ポータルサイト 「DENDAI – UNIPA」

19-1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」について

学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」は、履修登録・時間割確認・シラバス閲覧・掲示確認・成績照会など、様々な機能を使用することができるシステムです。

本学で学生生活を送るためには必ず使用することになります。

また、個別の学生呼出しなども「DENDAI – UNIPA」上で行いますので、1日に複数回、確認するよう心がけてください。

なお、学生の時間割確認・成績照会・出席情報については、保証人も閲覧できるように、入学年度の前期成績通知までにIDを発行しています。

19-2 「DENDAI – UNIPA」の閲覧環境について

「DENDAI – UNIPA」は、インターネットに接続可能なパソコン・スマートフォンであれば、学内外を問わず自由に閲覧することができます。

※本文中に記載の「画面デザイン」や「メニュー（機能）構成」等は今後変更になる場合があります。

(1) PCからの利用

【動作環境】

ディスプレイ	FullHD（1920x1080）以上推奨
OS	Windows 10, 11、macOS 10.14.x 以上
ブラウザ	Microsoft Edge（※）、Mozilla Firefox（※）、Chrome（※）、Safari（※）

※ 最新版の利用を推奨します。

(2) スマートフォンからの利用

休補講のお知らせや成績照会といった「DENDAI-UNIPA」の主要機能をスマートフォンからも利用できます。ただし、「授業時間割表」等の一部機能は利用出来ませんので、画面に表示されない機能はPCを利用してください。

また、履修登録については、画面表示サイズ・動作確認等の観点から、PCで行ってください。

【動作環境】

OS	iOS 12 以上、Android 8.0 以上
ブラウザ	iOS：Safari（※2）、Android：Chrome（※2）

※1 Android 環境でのファイルダウンロードの可否は端末により異なります。（一部の端末では、添付ファイルのダウンロードが出来ない場合があります）

※2 最新版の利用を推奨します。

【注意事項】

スマートフォンから利用する場合、以下の操作は行わないでください。

- PC を含む複数端末からの同時ログイン
- ブラウザの戻るボタンの使用
- PC からのスマートフォンサイトの操作
- スマートフォンからの PC 用サイトの操作

19-3 「DENDAI – UNIPA」 へのアクセス・ログイン方法

1 学生ポータルサイト「DENDAI – UNIPA」へアクセスします。

<https://portal.sa.dendai.ac.jp>



2 ログイン画面が開きます。

3 User ID に「学籍番号」を入力、PassWord に「パスワード」を入力し、「LOGIN」ボタンをクリックします。(図 1)



- ※ ログインには本学のネットワークを利用するための ID (学籍番号) およびパスワードが必要です (例：26kmj99 ※学籍番号の英字部分は小文字で入力してください)。
- ※ 新入生への初期パスワードは入学時にお知らせします。



図 1 ログイン画面

19-4 「DENDAI – UNIPA」の操作方法

詳しい操作方法は、UNIPA メニューの「資料／サイトリンク」タブにある「UNIPA 使用方法」より確認してください。(図 2) 最新版のマニュアルにアクセスすることができます。

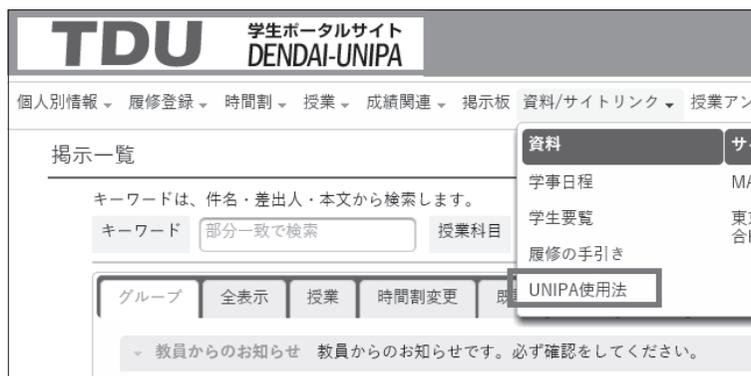


図 2 UNIPA 使用法

右記の QR コードからも UNIPA のマニュアル（東京千住キャンパス学生用）にアクセスすることができます。

※閲覧には、BOX（本学で使用しているクラウド型のオンラインストレージサービス）にログインする必要があります。学籍番号のメールアドレスと共通パスワードでログインしてください。



マニュアルに記載されている項目は以下の通りです。

- ・「DENDAI-UNIPA」について
- ・アクセス、ログインと画面構成
- ・掲示の確認・時間割について
- ・シラバス照会
- ・履修登録・抽選登録
- ・授業教室の確認方法について
- ・出席確認について
- ・個人情報について
- ・成績確認、卒業見込、進級見込判定
- ・メール設定について

上記はいずれも学生生活を送る上で極めて重要な事項であり、確認するには UNIPA を正しく操作する必要がありますので、マニュアルは必ず一読するようにしてください。

特に問い合わせの多い、卒業見込・進級見込の判定方法、授業教室や出席の確認方法、シラバス照会方法もこちらで案内しています。また、シラバス照会時に便利な「ふせん機能」についても紹介しています。自身に関係の深い授業科目のシラバスに「ふせんを貼る」ようにしておけば、ふせんを貼った授業科目のシラバスのみを表示させることができ、授業教室等の確認が素早く効率的に行えるようになります。

20 e-Learning システム WebClass

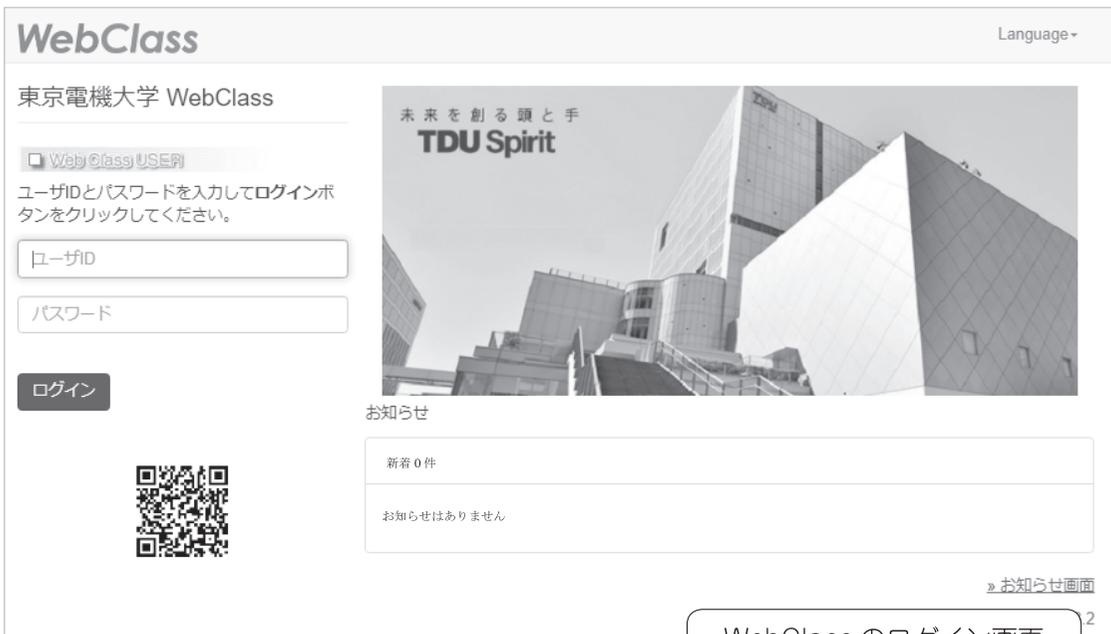
WebClass は、ネットワークを利用して、授業に必要な資料の提示・配布、テストの実行と採点、レポートの提出や成績の確認が行えると共に、掲示板機能を利用し、学生同士や教員と学生間でのコミュニケーション機能があります。PC はもちろん、タブレットやスマートフォンからも利用できます。以下の URL から、「WebClass」を選択してください。

URL: <https://els.sa.dendai.ac.jp/>

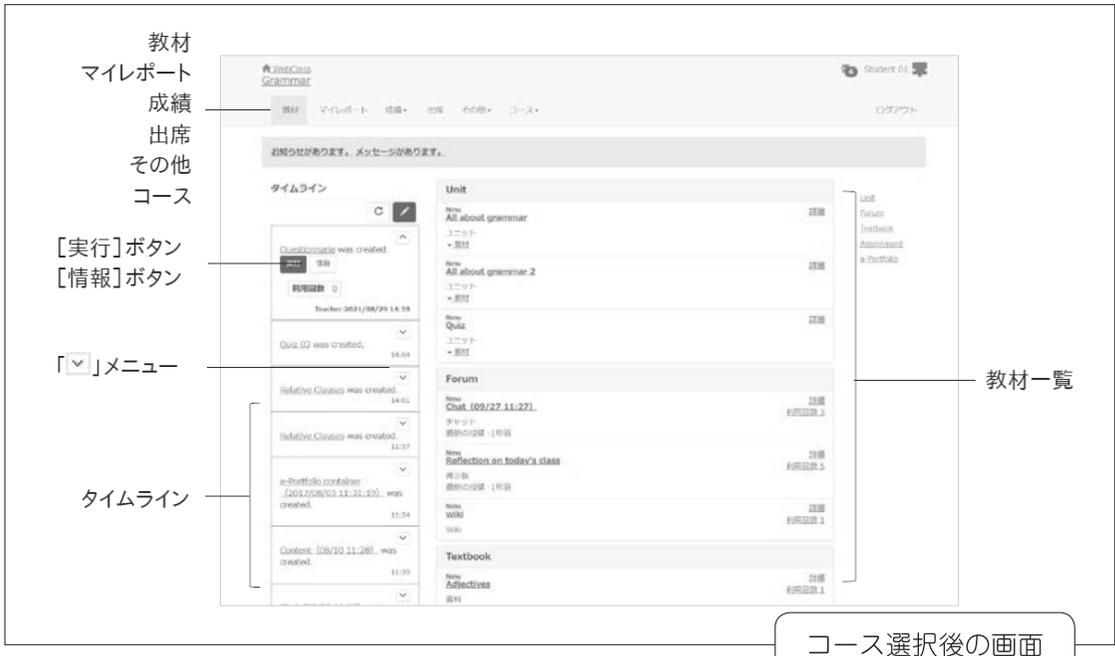
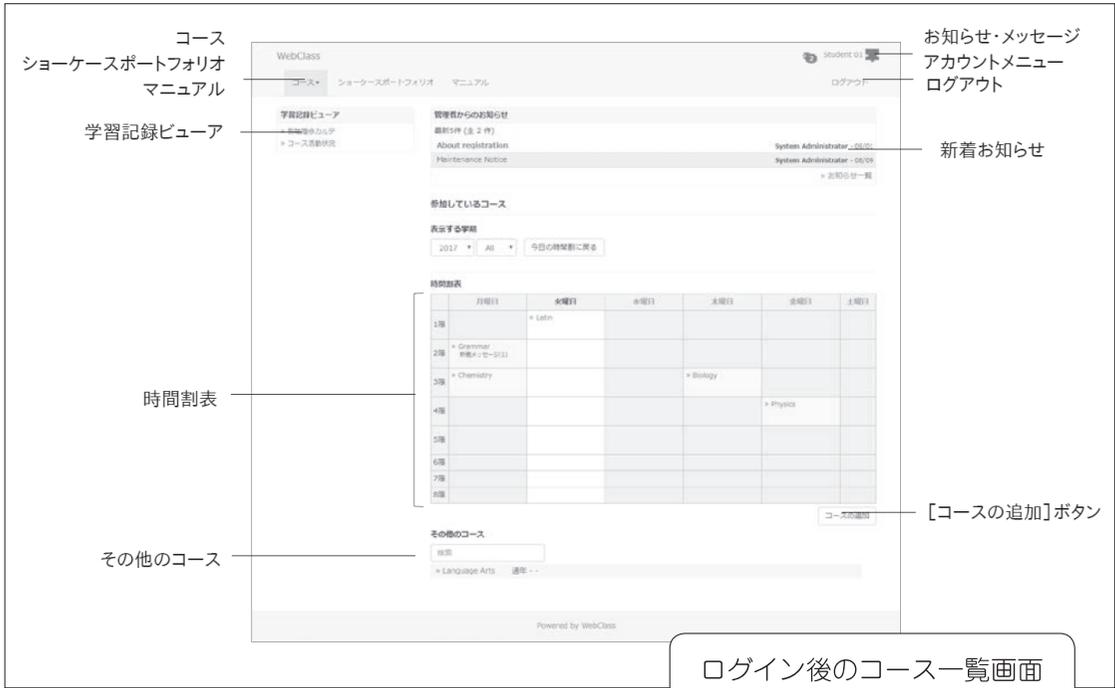
主な機能は以下の通りです。

<ul style="list-style-type: none"> ・資料の配布や提示 ・テスト / アンケートの実施 ・電子掲示板（質問場所の提供） 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャット ・メッセージ機能
---	---

※本文中に記載の画面デザインやメニュー（機能）構成等は、今後変更になる場合があります。



ログイン画面で、大学共通認証のユーザ ID とパスワード入力して「ログイン」ボタンをクリックします。WebClass へのログインに成功すると、このユーザが所属しているコース一覧と新着情報が表示されます。WebClass のコースとは、授業科目のことです。履修登録してある科目がカレンダーの形式で表示されます。科目名をクリックすることで、コース内へ移動し、「コースメニュー画面」が表示されます。画面上側に「機能メニュー」、画面右側に「教材一覧」が表示されます。



「新着お知らせ」には、事務部や担当教員からの履修者全員または個別の連絡事項が表示されます。

「教材一覧」には授業で使用する教材が表示されます。「会議室」では質問や意見を投稿できる掲示板やリアルタイムでの会話が可能なチャット機能があります。「資料」からは授業で使用される授業用スライドや参考資料の閲覧ができ、予習・復習や授業時のテキストとして

利用できます。「テスト / アンケート」ではレポート提出やアンケート、学力考査や小テスト、問題演習が実施できます。

各ページ右上アカウントメニューの「マニュアル」をクリックすることにより、PDF形式でダウンロードできます。

21 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」

21-1 ビデオコミュニケーションプラットフォーム「Zoom」について

Zoom は、インターネット経由で学内外どこにいても、ビデオや音声、チャットや画面共有など、双方向のコミュニケーションが可能です。

遠隔講義や授業配信だけでなく、従来の講義型授業やアクティブラーニングなど様々な場面で利用することができます。

21-2 「Zoom」の利用について

「Zoom」の利用方法や注意事項等の詳細は、総合メディアセンター Web ページをご確認ください。必ずマニュアルを見て正しい手順でサインインを行ってください。

※注意！

正しい手順でサインインを行わないと、オンライン授業の出席とならない場合があります。Zoom についてのご案内ページ

URL: <https://www.mrcl.dendai.ac.jp/mrcl/it-service/zoom/>

Zoom を利用するための本学専用のページ

URL: <https://dendai.zoom.us/>

ご案内ページには以下の内容がマニュアルと共に記載されています。

1. Zoom のミーティングに参加する方法

Zoom のミーティングに参加するためには、メール、UINPA、WebClass など授業の担当教員や会議の主催者から案内されているミーティング用 URL、ミーティング ID、パスコードが必要になります。

2. Zoom クライアント用アプリケーションのインストール方法

Zoom を初めて使用する場合は、クライアントアプリケーションのインストールが必要になります。

3. Zoom にサインインする方法

Zoom でミーティングの作成等を行う場合は、本学専用ページにサインインが必要です。

4. Zoom を開催（スケジュール）する方法

Zoom でミーティングを開催するには、本学専用ページでミーティングの作成が必要です。



TDU

東京電機大学

TOKYO DENKI UNIVERSITY